



校章について

本校の理念に集う人々が、現在から未来へ、この場所から世界へと「時空」を拓けながらスパイラル的に夢を実現して行く姿を表しています。

神奈川県立横浜清陵総合高等学校

〒232-007 横浜市南区清水ヶ丘 41 番地 電話 045(242)1926 代表

概 要

課 程	単位制による全日制
学 科	平成 28 年度生までは総合学科、平成 29 年度生より普通科
規 模	平成 28 年度は 21 学級 生徒数 829 名
学 期	2 学期制
授業展開	5 0 分 6 時間(平成 29 年度生より週 1 回 7 時間予定)

沿 革

平成 11 年	8 月	16 日	県立高校改革推進計画により横浜南部方面総合学科高校の指定を受ける
平成 15 年	4 月	1 日	横浜南部方面総合学科高校開設準備室開設
平成 15 年	11 月	4 日	神奈川県立横浜清陵総合高等学校として開校
平成 16 年	4 月	6 日	第 1 回入学式 平成 16 年度生 男子 96 名 女子 141 名 計 237 名入学
平成 17 年	3 月	4 日	第 1 回卒業式 平成 14 年度生 男子 96 名 女子 131 名 計 227 名卒業
平成 28 年	1 月	12 日	県立高校改革実施計画(I 期)により平成 29 年度より単位制普通科への学科改編の指定を受ける
平成 28 年	3 月	2 日	第 12 回卒業式 平成 25 年度生 男子 67 名 女子 167 名 計 234 名卒業
平成 28 年	4 月	6 日	第 13 回入学式 平成 28 年度生 男子 101 名 女子 177 名 計 278 名入学

教育目標(新校に伴い変更予定)

- 夢に向に向かってチャレンジする力を育てる
- 社会の変化に対応し、時代を切り拓く力を育てる
- 自ら課題を発見し、主体的に解決する力を育てる

本校の改革について

横浜清陵総合高等学校

校長 田中 顕治

平成 28 年 1 月、本県教育委員会より「県立高校改革実施計画 I 期」を受け、本校は、平成 29 年度生から単位制普通科に改編されることになりました。平成 16 年に旧清水ヶ丘高校と旧大岡高校が統合し、総合学科の横浜清陵総合高校として開校しましたが、平成 29 年度入学生より単位制普通科になり、平成 29 年、30 年の 2 年間は総合学科と普通科が併置することになります。

現在、日本は、少子高齢化、人口減少社会、グローバル化の進展、地球環境問題、ICT の急激な進歩への対応など、多くの課題が指摘されています。このような時代背景の中、高校教育、大学教育も大きく変わろうとしています。

大学進学率は過去最高 52%、私立大学定員割れ 44%

教育においても少子化に伴って高等教育の大衆化が進み、平成 28 年度の大学進学率は、過去最高の 52%、61 万 8 千余りの入学者を記録しました(平成 28 年度学校基本調査の速報より)。逆に、日本私立学校振興・共済事業団の「平成 28 年度大学・短大等入学志願動向」によれば、平成 28 年度の入学者の定員を下回った私立大学は 44.5%となり、特に小規模の大学が、定員確保に苦しむ実情が明らかになっています。

このようななか、現在、大学に進学する場合、学校を選ばなければ入学できる全入状態を呈しています。少子化が進展するなか、大学進学率の上昇とともに、推薦入試や AO 入試が急増し、学力を課さない入試が行われ、推薦入試や AO 入試の本来の趣旨にあっていないケースがあるのでなはいかと、中教審等では指摘されています。

高校教育の多様化

平成 6 年には、高校の生徒の多様な興味・関心、進路等に応じ、第 3 の学科として「総合学科」が設けられ、県内では平成 8 年に大師高校が普通科より総合学科に改編されて開校しました。本校も前述したように平成 16 年に総合学科として開校しました。

中学校から高等学校等への進学率は、平成 28 年には 98.7%であり、ほぼ全入段階です。生徒の興味・関心、進路等は多様化しているだけでなく、義務教育段階の学習を十分習得していないなど、学力格差もあるのが現状です。

新校開校に向けて(予定)

県立高校改革実施を受け、「進学に重点を置いた学校」を基本的なコンセプトに学校づくりを始め、次年度の普通科 1 期生の 3 ヶ年の教育課程表(カリキュラム)の編成にかかり、短

期間のうちに完成させることができました。

カリキュラムについては、1年次・2年次は、主に基礎・基本的な学力育成のため、学習指導要領の必修科目を多く配しました。また、2年次から文理コース制を採用し、自らの興味関心や進路実現のための発展的な学力向上に努めることのできる科目を配するようにはしました。私立大学、国公立大学のみならず医療看護系学校、国家公務員・地方公務員試験にも対応できるように編成されています。

2019(平成 31)年には高校基礎学力テスト、翌 2020(平成 32)年には大学入学希望者学力評価テストが導入されます。このテストに対応するため、カリキュラムを編成するだけでなく、生徒の学力の定点的な観測から学力を把握し、向上させるために、模擬試験等の回数や時期等について検討して配置することになります。また、基礎学力の定着や発展的な学力の向上を図るため、いままで以上に講習や補習の講座数を増やしていきたいと思っています。

いままで総合学科として 12 回 2,700 名を超す卒業生を出し、各界に人材を輩出してきました。しかし、今回の改革に伴い普通科に改編されることになりましたが、進学型総合学科で培ってきたキャリア教育プログラムや、コミュニケーション力の向上を図る授業は、普通科になっても総合的な学習の時間等で取り入れていきます。

単位制でよくいわれるホームルームの回数が少ないことや、ホームルーム教室において皆で学習することの回数が少ないことなど、ホームルームクラスの間関係の希薄さをいわれることがありますが、本校では年次進行型の単位制普通科になるので、学年制の高校と同様に、毎日ホームルームを行ったり、ホームルーム教室で多く学習することになります。このホームルームクラスでの学習活動、特別活動等を通して学校での人間関係を構築し、生涯の友をつくってほしいと願っています。

本校は校地面積が 4 万 7 千平米あり、県内高校の中でもベスト 10 に入る大きな敷地面積です。教室棟には玄関、事務室のある東棟、職員室のある南棟、昇降口のある西棟、多目的教室のある新棟の校舎に、体育館があります。運動場も陸上トラックのある第 1 グラウンド、野球部やサッカー部が練習しているグラウンド、球技コート、テニスコート、ハンドボールコートなど、けっして新しくはありませんが整った学習環境といえます。

本校は現在、教育目標である「夢に向かってチャレンジ」の精神で学校づくりに邁進していきます。是非、一緒に学校をつくっていきましょう。

本校の学習



本校の学習の特色は、単位制の学校なので、自らの興味・関心や進路に基づいてカリキュラム、すなわち時間割をつくることとなります。1年次は芸術科目以外、必修科目を学習しますが、2年次・3年次は必修科目と選択科目の両方を学びます。特に3年次になると進路に関係した科目を中心に学びます。

特に、1年次後期には、2年次の選択科目を決めていきますので、早い段階から将来に向けて進路を考える必要があります。そのために進路ガイダンスや、一人ひとりに応じた履修指導を行っています。

ここ5年間の主な進学実績

***大学** 横浜国立大学、広島大学、静岡大学、東京海洋大学、慶應義塾大学、早稲田大学、青山学院大学、上智大学、中央大学、明治大学、法政大学、日本大学、國學院大學、専修大学、明治学院大学、東京農業大学、成城大学、白百合女子大学、神奈川大学他

***短大** 青山学院女子短期大学、上智短期大学、東京農業短期大学、共立女子短期大学他

本校の特別活動



本校では、学校行事や部活動・委員会活動をとおして、心身の発達や個性の伸長を図り、望ましい人間関係を構築するために重要な活動と位置づけています。

*主な学校行事(平成28年度の例)について

4月 入学式 5月 遠足 6月 体育祭 7月 球技大会

10月 清陵祭 修学旅行(2年次 体験コース、国際コース)

11月 芸術鑑賞 2月 3年生を送る会 3月 卒業式 球技大会 特色科目発表会

*部活動

2つあるグラウンドや5面のテニスコート、プール、体育館等の整った施設を活用し、運動部・文化部・同好会を合わせて30以上の部・同好会が活動しています。特に、陸上競技部、レスリング部、ライフル射撃部、水泳部、写真部は、全国大会・関東大会に出場しています。



[部] 野球 サッカー 陸上競技 水泳 ダンス 体操競技 卓球 バasketボール バレーボール 硬式テニス ソフトテニス ライフル射撃 レスリング バドミントン ハンドボール 剣道 吹奏楽 書道 写真 美術 軽音楽 演劇 茶道 文芸 自然科学 漫画研究 クッキング パソコン 国際交流 ワンダーフォーゲル 合唱

[同好会] JRC 鉄道研究